

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13385

研究課題名(和文)ヘレニズム期エジプトにおける社会規範の形成と変容―書簡研究を通じて

研究課題名(英文)Letters and Social Norms in Hellenistic Egypt

研究代表者

石田 真衣 (Ishida, Mai)

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：90839375

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では書簡コミュニケーションの分析を通じて、ヘレニズム期エジプトにおける社会規範とその変容過程について明らかにすることを試みた。

(1)ギリシア語・エジプト語パピルス文書・碑文史料データベースの作成。(2)書簡コミュニケーションの分析：地域別の事例研究をもとに、紛争解決における新しい制度と伝統的な慣習の相互作用について検討した。ローカルな法運用や紛争解決の交渉が、権力者と民衆の多様な人的関係のなかで戦略的に展開されていたことを明らかにした。(3)社会規範の変化と再編についての考察：嘆願行動と自発的組合活動を事例とし、各コミュニティの社会的役割と紛争処理の実態面について考察を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)史料学的課題への取り組み：ギリシア語・エジプト語史料、および、パピルス・碑文史料を総合的に分析した。基礎研究においてデータベース化を軸に据え、古代史史料の多様化とデジタル化の議論を深める素材を提供した。

(2)ヘレニズム社会史の新たな視点：紛争処理研究と書簡研究を総合し、既存の社会史や法制史の枠組みを超えた新たな研究モデルを提案した。

(3)「ヘレニズム」という文化事象の実態解明：ローカルなコミュニケーションの実態から、ギリシア文化 エジプト文化間の相互作用を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine how social norms changed in Hellenistic Egypt due to cultural interaction, analyzed through epistolary communication. Research achievements are summarized as follows.

(1)Creating a database of Greek and Egyptian papyrological and epigraphical resources. (2)An analysis of epistolary communication: I investigated the interaction between the new system and traditional custom in dispute settlement, while emphasizing the petitioners' viewpoint. The study revealed that the operation of laws and the negotiation of dispute settlement were strategically conducted in the context of interpersonal relationships between the authorities and the local people. (3)An examination of the change and reorganization of social norms: Focusing on the activities of voluntary associations, the study examined the social functions of each community and the practical aspects of dispute settlement.

研究分野：西洋古代史、ヘレニズム史

キーワード：ヘレニズム プトレマイオス朝 エジプト 社会変容 紛争解決 パピルス

1. 研究開始当初の背景

本研究は、従来ギリシア文化を主体として語られてきた「ヘレニズム」(ギリシア化)という文化事象を、社会の実情に即して捉え直し、その浸透と変容のプロセスを解明する試みである。具体的には、ヘレニズム社会のなかでもとりわけ長い伝統をもつエジプトを事例とし、在地社会を構成するあらゆる人的関係のもとに成立した書簡コミュニケーションの分析を通じて、ヘレニズム時代の社会規範の変容過程の一端を明らかにする。

書簡コミュニケーションのなかでも人々の嘆願行動に注目することは、権力構造との関わりから重要である。日常生活において私的な紛争や問題が生じたとき、当事者たちは解決を依頼する嘆願書を権力者に提出することによって解決を図った。こうした嘆願行動は、最終的に法廷での裁判につながる司法システムの一部として機能しているため、公的な制度として捉えることができる。その一方で、嘆願書の作成と提出については、その書式が書簡形式をもっていることと、提出先が当事者の都合に応じて選択されることから、私的な領域ともみなされうる。

嘆願書を主史料とした紛争処理の先行諸研究は、(1)嘆願書を「訴状」とみなす法制度史的枠組み、(2)嘆願書の主な提出先となった地方行政役人による処理の実態をとおして、在地エジプト社会における法の運用や執行面を明らかにしてきた。前者は、この時代の法制度の特徴である法的多元性、すなわち王朝の勅令、ギリシア法、エジプト法の並存関係を前提としており、在地社会を静態的に捉えがちである。それにたいして後者は、紛争処理者の動向を動態的に把握しながらも、処理人と紛争当事者の関係性について十分な検討がなされておらず、紛争処理における判断基準や論理を究明するまでには至っていない。加えて、紛争処理研究の根本的な問題として、嘆願書を受け取った処理人の多くが地方行政役人であることから、ギリシア系支配者層を主体とする社会秩序のあり方が問われる傾向にある。

民族的・文化的混淆が進行する在地社会において、社会秩序を維持したものは何であったのか。嘆願書を書簡の一形態とみなし、書簡を媒介とするコミュニケーション全体を考察対象に据え、制度内外の秩序形成と再編のプロセスを明らかにすることが本研究の課題である。

2. 研究の目的

本研究は、ヘレニズム期エジプトにおける書簡を媒介とする日常的コミュニケーションを考察対象とし、(1)書簡コミュニケーションの作法、(2)秩序維持の観点における書簡の役割を分析することによって、前2世紀から後1世紀を中心とする社会規範の形成と変容のプロセスを解明することを目的とする。研究の過程では、嘆願書を含め、ギリシア語・エジプト語パピルスおよび碑文史料のデータベースを作成し、包括的な分析をおこなう。これによって書簡研究と紛争処理研究を総合する。

3. 研究の方法

本研究の主たる史料は、エジプト全域から出土した書簡パピルスおよび碑文史料である。対象の時代は、在地社会において民族的・文化的混淆が進行する前2世紀から、ローマ期への過渡期である前後1世紀までを中心とする。

(1) 書簡の基礎的研究と史料データベースの作成

本研究の土台として、前2世紀の書簡(約600点)と前後1世紀の書簡(約400点)の内容をデータベース化する。史料1点から収集する主なデータ項目は、年代、出土地、差出人、受取人、内容(類型化する)、人的構成と関係性、アーカイブ(古代において個人や集団によって一括保管されていた文書群)の情報、紛争・問題の内容、当事者の要求内容、規範に関わる内容の情報を収集する。

(2) 紛争処理の観点からの書簡コミュニケーションの分析

日常における紛争は、個人間、集団間、個人・集団間で発生する。そして紛争の予防や直接交渉、和解もまた個人と集団の多様な関係のうえに成立している。このような人的関係と規範の関連性について、ギリシア語・エジプト語文書および碑文史料の包括的な分析をもとに地域別の事例研究を蓄積する。

(3) 社会規範の形成と変容についての通時的研究

日常コミュニケーションを通じた社会規範の形成と変容を通時的に分析する。前後 1 世紀の過渡期に注目し、ヘレニズム期・ローマ期の連続性についても考察する。

4. 研究成果

(1) ギリシア語・エジプト語パピルス文書および碑文史料データベースの作成

基礎研究において、主たる書簡史料は、エジプト全域から出土している書簡パピルスであるが、そのうち碑文として残存している書簡テキストも分析対象とすることによって、コミュニケーション形態の多様性について検討をすすめた。パピルスを媒介とする当事者間の交渉過程が、公開性と永続性をともなう碑文として記憶されたとき、書簡史料は、より広い社会的文脈のなかで考察され得る。データベースについては、各史料の年代、出土地、差出人、受取人、内容、人的関係を中心に、約 800 点の書簡史料の構造と特徴を整理した。嘆願書データベースの一部は後述の単著にて公表した。

また、パピルス文書の史料学的課題を検討し、デジタル史料の活用とその動向について報告をおこなった。(石田真衣「パピルス・アーカイブと歴史研究」日本西洋古典学会第 73 回大会・フォーラム「西洋古典学とデジタル・ヒューマニティーズ」2023 年 6 月 4 日(獨協大学); 同報告要旨『西洋古典学研究』71, 2024 年, 60-62 頁)

COVID-19 の影響により、当初計画していた海外研究機関におけるパピルス史料の収集・調査が滞り、期間内にデータベースを完成させることはできなかったが、分析対象を碑文史料に広げることによって、当該分野の史料学的問題や新たな研究アプローチを見出すことができた。

(2) 紛争処理の観点からの書簡コミュニケーションの分析

史料の残存状況や社会構造の差異に応じて、地域別の事例研究を蓄積した。特に、エジプトのファイユーム地方においてギリシア語による嘆願手続きが浸透した背景について考察を深めた。ファイユームは新興地域であったがゆえに、新しい官僚組織とギリシア語による嘆願の文書化が急速に浸透したと考えられる。そのような枠組みとともに、次第に各地区とコミュニティに独自の嘆願処理ネットワークが形成されていった。(石田真衣「ヘレニズム期エジプトにおける嘆願と社会関係：ファイユームの事例から」『待兼山論叢』54, 2020 年, 27-50 頁)

さらに、パピルスに記された嘆願書が石に刻まれる事例をもとに、異なる媒体で機能する嘆願テキストの役割について考察を深めた。(石田真衣「公開される嘆願書：フィラエ・オベリスクの事例から」第 70 回日本西洋史学会大会 小シンポジウム I「古代地中海世界におけるメディア・コミュニケーション・間テキスト性」於大阪大学 / オンライン, 2020 年 12 月)

(3) 社会規範の形成と変容についての通時的研究

ヘレニズム期のエジプトにおける社会規範の形成過程を明らかにするための事例研究として、私的組合の活動に着目し、各コミュニティの社会的役割と紛争処理の実態面について考察を深めた。ヘレニズム期からローマ期にかけてのパピルス文書史料(書簡、嘆願書、規約)と碑文史料(顕彰碑文、奉納碑文、規約)を収集し、信徒団、軍人集団、職人集団を中心とする組合に関する史料を精査した。これらをもとに私的組合の構成員(信徒団、軍人集団、職業組合、出自、女性)活動の記録(会合、奉納)地域的特徴と時代的变化について分析し、各集団の自発的活動の内容と神殿(聖域)との関係を明らかにした。成果の一部は、石田真衣「紀元前後のエジプトにおける社会結合」『古代文化』75(1), 2023 年, 102-107 頁によって公表した。

以上の成果のうち、紛争解決において、ローカルな法運用や紛争解決の交渉が、権力者と民衆の多様な人的関係のなかで戦略的に展開されていたことを明らかにしたものとして、単著『民衆たちの嘆願：ヘレニズム期エジプトの社会秩序』(大阪大学出版会, 2022 年)を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石田真衣	4. 巻 54
2. 論文標題 ヘレニズム期エジプトにおける嘆願と社会関係：ファイユームの事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 27-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田真衣	4. 巻 75-1
2. 論文標題 紀元前後のエジプトにおける社会結合	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石田真衣
2. 発表標題 紀元前後のエジプトにおける社会的結合の場
3. 学会等名 古代史研究会特別研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田真衣
2. 発表標題 公開される嘆願書：フィラエ・オベリスクの事例から
3. 学会等名 第70回日本西洋史学会大会 小シンポジウムI
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田真衣
2. 発表標題 パピルス・アーカイブと歴史研究
3. 学会等名 日本西洋古典学会第 73 回大会 フォーラム
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石田 真衣	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 民衆たちの嘆願	

1. 著者名 マイケル・ライス著、大城道則監訳、石田真衣ほか共訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 柊風舎	5. 総ページ数 544
3. 書名 古代エジプト人名事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------